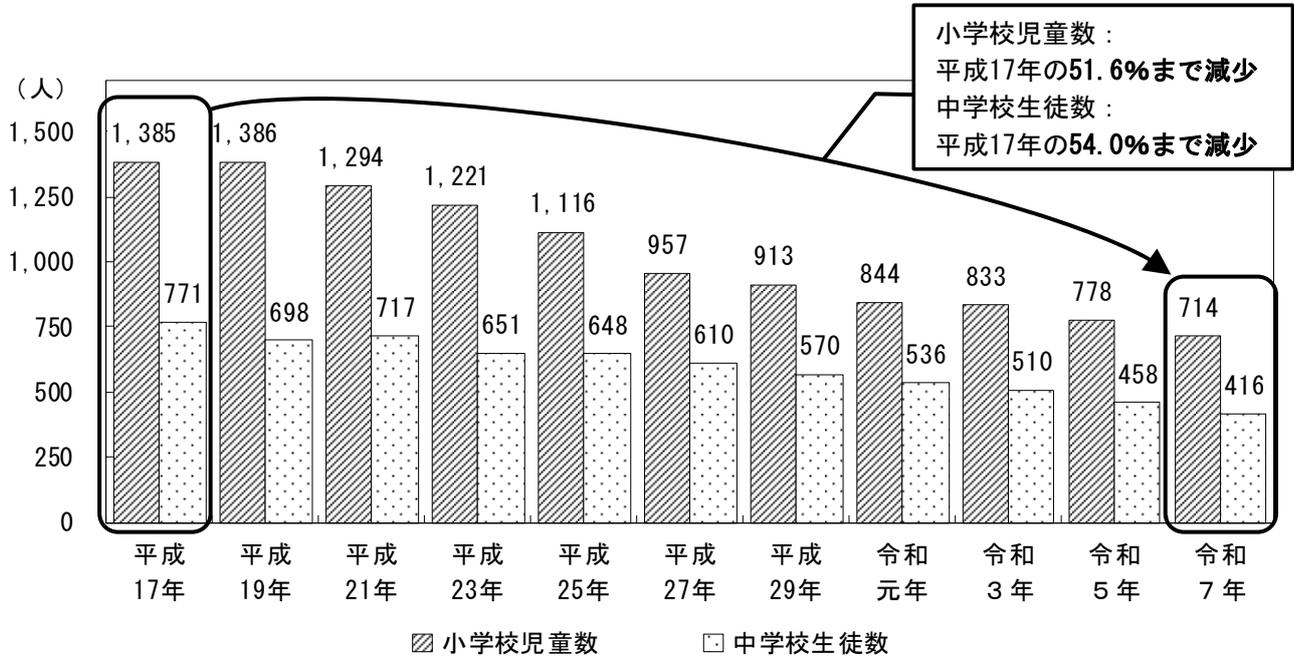


揖斐川町の学校教育の現状

◆揖斐川町の児童生徒数は減少を続けており、平成17年から令和7年までの20年間で児童数、生徒数ともに半数近くに減少しています（図表1）。

図表1 児童生徒数の推移



時点：各年5月1日現在

◆小学校区別の出生数を見ると、いずれの小学校区も減少傾向にあり、昨年度の出生数は48人となっています。今後転出入により多少の増減は考えられるものの、令和13年度に新たに小学校に入学する新1年生は、町全体で50人程度となると見込まれます（図表2）。

図表2 小学校区別出生数の推移

単位：人

地区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	進学する中学校
	令和6年度生まれ	令和5年度生まれ	令和4年度生まれ	令和3年度生まれ	令和2年度生まれ	令和元年度生まれ		
揖斐小校区	6	10	12	10	16	13	67	揖斐川中学校
清水小校区	5	7	10	6	11	8	47	
小島小校区	11	18	16	17	25	18	105	
脛永地区 (養基小校区)	5	3	6	10	10	15	49	
大和小校区	10	11	9	8	14	13	65	北和中学校
北方小校区	2	4	10	10	10	12	48	谷汲中学校
谷汲小校区	9	4	11	10	9	10	53	
合計	48	57	74	71	95	89	434	

時点：令和7年3月31日現在

- ◆小学校ではすべての学校において全学年1クラスの単学級編制となっており、さらに複式学級（2つ以上の異なる学年を1つのクラスに編制する学級）となっている学年もあります。

また、中学校では、1学年1クラスとなっている学校もあります（図表3）。

- ◆国は、望ましい学級数の考え方として、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するために、1学年2クラス以上（小学校：1つの学校に12クラス以上、中学校：1つの学校に6クラス以上）あることが望ましいとしています。

さらに、中学校において免許外教科担任をなくし、すべての授業で教科担任による学習指導を行うためには、少なくとも1学年3クラス（1つの学校に9クラス以上）が望ましいとしています。（文部科学省：「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（平成27年1月））

図表3 学校・学年別児童生徒数

【小学校】

単位：学級数はクラス、その他は人

小学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	学級数※	進学する中学校
揖斐小学校	12	17	21	24	17	26	117	8	揖斐川中学校
清水小学校	12	5	10	12	11	7	57	5	
小島小学校	36	19	26	28	28	36	173	8	
養基小学校（脛永地区）	9	14	14	17	16	16	86	9	
大和小学校	12	14	21	17	21	20	105	7	北和中学校
北方小学校	8	8	14	18	18	17	83	7	
谷汲小学校	13	21	16	11	20	12	93	7	谷汲中学校
合計	102	98	122	127	131	134	714		
養基小学校（全校生徒）	21	30	27	34	33	31	176		

※特別支援学級を含む。

【中学校】

単位：学級数はクラス、その他は人

中学校名	1年生	2年生	3年生	合計	学級数
揖斐川中学校	77	83	88	248	11
北和中学校	37	43	43	123	7
谷汲中学校	17	18	10	45	3
合計	131	144	141	416	

時点：令和7年5月1日現在